

営農型太陽光発電事業の普及を図る為の実証事業

プロジェクト実施者: (日本側)ファームランド株式会社、(Uzbekistan側) A Master Fruit LLC

事業の概要

- 半乾燥地域である同国での水資源保全の実現と、農業生産性を向上させる可能性がある営農型太陽光発電の普及を図る。
- 試験農場約1haに透過型太陽光パネル並びに先進的技術を導入した追尾型架台を用い、営農型太陽光発電プラントを新たに建設する。この太陽光発電システムに加えて、既設の点滴灌漑システムも同時に使用した実証を行い、下記の項目の情報を取得する:
 - ・営農型太陽光発電システムの電力特性
 - ・再生可能エネルギー電源の系統接続における留意点
 - ・水資源の保全効果
 - ・果実日焼け、鳥害、雹(ひょう)、霜、豪雨、干ばつなどによる収穫ロス率の低減策
 - ・半乾燥地域における適切な農業栽培技術データの整備等
- 本実証の成果を現地で示し、情報を共有することで営農型太陽光発電事業の普及促進につなげる。
- 事業化時には8,456tCO₂/年削減を目指す。(DC容量合計20MWp)

〈営農型太陽光パネルのイメージ写真〉



対象とする国・地域の概要



ウズベキスタンは、経済成長に伴う電力需要増に対応するため、再生可能エネルギーの導入を国策として進めている。また、同国では農業用水としての水資源不足が2030年に深刻化することが指摘されている。

対象とする国・地域における事業化・普及の見込み

事業化の見込み:

STEP1/実証内容のデータ取得、現地生産者へのヒアリング、啓もう活動(セミナー開催)

STEP2/営農型太陽光発電プラントの導入

2027年 4MW

2028年 8MW

2029年 8MW

普及の見込み:

太陽光発電設備導入による収益性、作物生育への影響、水資源保全効果を実証し、現地農業生産者を対象としたセミナーの開催等の啓発活動を通じて参画希望者を獲得し、普及拡大につなげる。